

◎障害者医療・支援

座長 佐直 信彦

I-P1-7 内部障害・難病指定患者を対象に含めたスポーツフェスティバル開催への取り組みについて

東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座
後藤 杏里, 安保 雅博

近年、障害者スポーツの効用として、身体機能向上および健康維持増進、心理的効果が認識されている。しかし、日本における障害者スポーツ人口は、全障害者の約3割にすぎず、多くの者は、屋内生活中心で、運動量不足が問題視されている。障害者に対する運動機会の習慣化は、障害者スポーツセンターのような特定の場所に集まってスポーツするよりも、障害のない者と一緒にスポーツをした方が効果的であると言われているが、両者が同時参加できるスポーツの機会は少ない。また、障害者スポーツの対象は、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、知的・精神障害が中心で、増加傾向にある内部障害については、H20年度から膀胱、直腸機能障害者の全国障害者スポーツ大会への参加が認められたのみである。その他の内部障害や障害認定を受けていない難病患者に対しては、リスク管理や運動負荷量の設定等、スポーツ大会への参加体制が未整備であるために、参加対象外となっている。そこで、本年9月、難病および障害者支援団体、医療関係者、陸上関係者から組織された実行委員会を中心に、東京都調布市味の素スタジアムにて「ウォーク&ランフェスタ2009」を開催することとなった。健常者および内部障害を含む全ての障害者を対象に、運動の啓蒙と病気および障害理解増進を目的としている。誰もが自己のペースで参加できるスポーツ環境と医療サポート体制の構築にむけ、障害者の区分けや運動量の設定についての当実行委員会の取り組みについて紹介する。